

事務事業 No./名称	<input checked="" type="checkbox"/> サービス部門 健福-38 老人保健事業 <input type="checkbox"/> 支援部門				タイムスコード及び個別事業名	
					1285	老人保健事業
主管課	市民健康課		関連課	高齢者いきいき課		
分野名	健康福祉					
目標 (目標値)	65歳以上の高齢者がいきいきと生活できるよう健康増進を図る。					
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備考		
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯			
運営資源 状況	決算値	67,624千円	134,436千円			
	(国・県)	24,419千円	33,560千円			
	(負担金等)	0千円	0千円			
	(一般財源)	43,205千円	100,876千円			
	人員配置数	4.1人	4.1人			
	人件費	38,029千円	38,398千円			
	協働の パートナー	無	無			
事務事業 運営経費	総事業費	105,653千円	172,834千円	指標と評価 指標 機能訓練教室参加の指導延べ人数 評価 △ ◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		
	市民1人当りの経費	598円	979円			
	対象者1人当りの経費	-	-			
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名					
創意・工夫・課題等 改善状況	課題・問題点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・医療にかかっていない、健康に興味がないなどの特定健診未受診者に対する受診勧奨ができていない(レセプト情報との連動困難)。一方、医療が必要な方に対して、悪化予防のために年1回の健診ではなく定期受診を勧めることが課題。 ・高齢期前に生活習慣病の予防を動機付けするための講座などの実施が必要である。 ・機能訓練を必要とする対象者が市内にどのくらい存在しているか把握できていない。 ・元気な高齢者の健康づくり講座等のバリエーションを増やすことが課題。				
	創意・工夫・課題等の改善点 21年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・機能訓練教室の周知の機会を増やすために、広報・衛生時報に記事を掲載する・市内医療機関や関係機関に事業紹介する・健康づくり講座などの会場でリーフレットを設置する、などを実施した。 ・機能訓練教室参加者に対し、教室開始時から終了後の自主活動の意識づけを行い、新規の自主グループが立ち上がるなど自主活動への動きができてきた。 ・元気な高齢者が健康維持・介護予防を实践できよう、介護予防事業と連動した講座を実施した。				
	未解決の課題・問題点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・機能訓練教室や個別相談の潜在的な新規参加者の開拓が十分できていない。 ・元気な高齢者の健康維持目的の事業メニューが十分でない、今後は関連する機関や事業と十分な連携をとる必要がある。				
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・機能訓練教室や個別相談の周知方法の見直しと関係機関等の協力を得て、地域に潜在している新規参加者を開拓していく。 ・元気な高齢者を対象とした健康づくり講座を実施し、参加者が健康行動を継続できるように関係機関・事業と連携していく。				
一次評価(課長評価)			二次評価(部長評価)			
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了						
評価結果	改善の必要性	評価結果			改善の必要性	生活習慣病予防対策と、機能訓練事業の周知に努め、高齢者の健康増進を図る必要がある。
B	有	B			有	
課長名	市民健康課長 相川 誉夫			部名・部長名	健康福祉部 石井 和子	